

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600275		
法人名	有限会社 森		
事業所名	グループホームいこいの森		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1811番地		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年11月21日	外部評価確定日	平成25年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○建物1階部分には、協力医療機関がある利点を生かし医療と連携して健康管理に努め、看取り介護を行っている。建物3階には併設型認知症対応型デイサービスと共用型認知症デイサービス(3名)があり、利用者同士の交流も盛んである。</p> <p>○運営推進会議には、利用者本人・家族・地域住民等多数の参加があり運営に際し、意見と共に実際協力も得ている。家族会もあり、家族主催の行事も開催されている。又、近隣の幼稚園との交流も行っている。開所当初からの定期的なボランティア等との交流も盛んで年に数回の大きな行事では地域住民も招待し、常にひらかれたGH運営を目指している。</p> <p>○全職員を年1回以上外部研修に参加させ、介護知識や技術の向上に努めている。内部研修にも力をいれている。資格取得にも支援を行い、介護福祉士の資格取得を目指している。</p> <p>○開所当初より開設者は介護職員の不安やストレスを軽減する為、人員配置に配慮している。</p> <p>○町と協力し認知症サポーター養成講座を開催し、地域での啓発活動を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「ありのままのあなたを受け入れます」「喜びや」楽しみは勿論、悲しみや苦しみも分かち合える事が私たちの喜びです」「住み慣れた地域で、好きな事を、好きな時に、一緒に楽しめるお手伝いをします」の運営理念が管理者と職員が心を一つにしながら正に実現しているグループホームである。</p> <p>地域との結び付きも強く地域住民やボランティアの訪問も多い。「雛の会」や「敬老会」は利用者だけでなく、家族や地域住民の楽しみにもなっている。また、事業所から地域の老人会や商工会、民生委員会の研修会等へも積極的に出かけている。</p> <p>職員の明るさや気さくさは、家族にとって話しやすさや相談しやすさを感じさせている。</p> <p>年間計画に基づいての行事や希望による外出支援は利用者に喜ばれ、閉塞感が無い。家族会の運営を家族に任せ、職員が希望する外部研修を勤務として参加させる、人材育成、管理者が家族と利用者・家族と家族同士・家族と他の利用者との間をうまく結びつける等、常に質の高いサービスや支援があるグループホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のありのままの姿を受容し、「地域や家族の一員としての暮らし」を支援することを理念とし、職員だけでなく利用者、家族、来訪者など誰もがすぐに目に入る場所に掲示し、その共有と実践に努めている。	職員研修会で折にふれ、理念について話し合いう等、常に理念を意識しながら日常の支援に臨んでいる。事業所設立時から住み慣れた地域での付き合いを大切にしながら、理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や防災訓練、事業所で行う各種行事への地域住民の参加が多く、事業所職員も地域の行事や活動へ積極的に参加することで、地域の方々との交流を日常的に図っている。	雑の会や敬老会等の行事だけでなく、地域の住民やボランティアの訪問も多い。以前入居していた家族から栗拾いの誘いがある等、今も繋がりが保たれている。地域の老人会、商工会、民生委員会、近隣の独居老人の家庭を訪ねる等、地域にも積極的に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や民生委員などを対象とした認知症サポーター養成講座や地域の方々のボランティア来訪時などに、認知症への理解や協力、支援を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、毎回事業所の活動状況や利用者の生活の様子などを報告している。家族の代表や区長、町議、地域住民、町役場の担当者など多数の参加があり、活発で有意義な話し合いが行われている。	推進会議の委員だけでなく、議題に応じて、消防団、警察官、有識者、主治医や歯科医、ボランティア代表等の出席もある。非常時の地域住民の参加、家族や住民も参加した行事、地域との関わり等、いろいろと運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への町役場担当者の参加により事業所のサービス内容や取り組みを伝え、また町からの認知症サポーター養成講座の依頼も多くあり、協力関係はできている。	運営推進会議時に行政からの参加だけでなく、施設長や事務長はよく行政側にも顔を出し、課題や情報を共有する等良好な関係が保たれている。町内グループホーム交流会へ影ながらの応援や、スプリンクラーの早期設置等も行政との連携から実現している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に「身体拘束のないケアの実践(具体的な禁止行為)」を掲示するとともに全職員での勉強会を行い、問題意識の共有とケアの実践に努めている。	身体拘束や心の拘束がもたらす弊害については外部研修会や勉強会を通じて十分に理解し、拘束の無い支援が実現されている。玄関等の施錠もなく出入りも自由で、見守りや付き添いで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の他、内部研修(勉強会)を行うとともに、日頃から職員同士で注意を払い虐待防止に努めている。また、自宅での虐待が疑われる場合には関係機関への連絡を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の他、内部研修(勉強会)において権利擁護に関して学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム入居や共用デイ利用の際にはその都度面談や説明を行い、また、改定を行う場合には全ての利用者の家族を対象に説明会を開き、不安や疑問の解消に努め理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、運営推進会議や家族会への参加者、普段の家族の面会も多く、職員は常にコミュニケーションを大切にし、日頃から意見や要望などを聞き出すよう努め、運営や支援に反映している。	家族の面会が多く、職員との対話もごく自然に行われ、その結果は運営に活かされている。面会に訪れた家族に他の利用者との話しかけも勧めたり、家族が帰る時の表情や雰囲気等を大事にして意見や要望を聴いている。家族会も家族自体で運営され、家族と職員のお茶会の機会もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の業務にも従事し、日頃から職員の意見や提案を聞いている。また、月1回の職員研修会にも出席し、職員の意見や提案をもとに話し合いを行い運営に反映している。	外部評価にあたって全職員に自己評価を記入する機会を設け、それが運営にも活かされている。また、管理者は普段から職員の意見や考えに耳を傾け、職員の良さを伸ばしながら人材育成にも力を注いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(管理者)は、職員一人ひとりの生活や家庭の状況などに配慮し、勤務しやすい職場環境の整備に努めている。資格取得の支援にも努め、今年度は2名の職員が介護福祉士を取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者(管理者)は、職員一人ひとりの希望や力量を考慮し、毎年外部研修に参加させている。また、月1回の職員研修会においてもテーマを決めて勉強会を行ったり、日々の業務の中でもその都度指導や助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や主任が定期的に白石町グループホーム連携協議会に参加し交流や情報交換を行っている。また、町内五つのグループホーム交流会を定期的に開催し、相互交流やサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には施設を見学していただきながらサービス内容を説明し、管理者やケアマネージャーを中心に本人様の話を伺い、不安の解消に努めている。また、入居前にはご自宅や入所中の施設へ赴き、本人様と面会するなど、安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と同様、家族様にも十分に説明を行うと同時に、困りごと、不安や要望等を伺い、不安の解消と信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居から1ヶ月程度は、まず本人様の状態把握に努め、本人様や家族様と話し合いを行いながら、最も必要な支援を見極め、介護計画への反映やサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や趣味の活動など、本人様がができる作業を一緒に行いながら、ホームの中での役割や生きがいを持って共に生活できるような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、家族と施設が協力して本人様を支えていくことや家族の絆の重要性を理解していただくよう努めている。敬老会をはじめ各種の行事、地域の活動など職員と家族と一緒に参加し作り上げ、本人様にいつまでも安心して楽しく暮らしていただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、お盆や正月だけでなく、いつでも外泊や外出ができることを伝え支援をしている。また、家族の他、親族や知人の方々にもできるだけ面会にきていただき、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。	利用者の希望を取り入れて公園やお店に出かけている。外食もある。バスでの小旅行もある。また、自宅までドライブしたり、お墓詣りに出かけることもある。事業所からの働きかけもあり、知り合いや近所の方の訪問も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を十分に把握し、一人ひとりの個性や長所を引き出しながら、またトラブルを防止しながら一緒に会話や活動が行えるように、食事の席や日中過ごされる場所を工夫し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで入院等により契約が終了された方の中には、家族様が来所されて職員と話をしたり、ボランティアとして訪問されている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的なアセスメントだけでなく、日常生活での関わりや何気ない会話の中から利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。意思伝達が困難な利用者については、その表情や行動から推察しケアへ反映している。	諸情報からだけでなく、普段から利用者の表情、会話、つぶやき、行動などからも本人の思いの把握に努めている。利用者の思いや希望は全職員が共通して受け止めており、それらがケアに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人様や家族様からの聞き取り、担当のケアマネージャーからの情報だけでなく、入居後も普段の会話や昔話などから、これまでの生活歴や暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活では朝夕の申し送り、業務日誌、個人記録等により利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態把握などに努めている。また、月1回の全職員のケアカンファレンスにおいて1ヶ月の生活や身体状況などの報告を行い、情報の共有、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにおいて全職員で利用者一人ひとりのケアについて検討し、モニタリングと定期的な評価を行っている。利用者や家族とは日頃から面会時などに意向の把握に努め、必要があればいつでも話し合い、現状に即した介護計画に変更している。	利用者や家族の意向を把握して、利用者本位のその人らしさが見える具体的な介護計画である。評価は毎月行っている。3ヶ月毎、或いは実情に応じて随時見直している。介護計画は関係職員全員が把握し、同じ意識でケアにあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画や日々の生活の様子をもとに利用者一人ひとりの個人記録を記入し、全職員が常に情報を共有し状態を把握できるようにしている。その情報を踏まえてさらにケアを実践し、定期あるいは状態変化時の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や通院、外出等は、利用者一人ひとりのその時々状態や体調に合わせて、家族様の意向を確認しながら柔軟に対応している。また、併設のデイサービスやボランティア、地域住民との交流なども日頃から活発に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、老人会、地区消防団、駐在所、協力医、ボランティア等、地域の多数の方々が運営推進会議や各種の行事、活動等に参加、協力されており、利用者一人ひとりの安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望時や必要時はいつでも併設の医療機関を受診できる体制ができています。また専門の医療機関の受診が必要な場合は主治医の紹介により適切な医療が受けられるようにしています。家族が行けない時には同意を得て看護師等が受診に付き添っている。	家族、利用者が希望する医療機関での受診である。事業所の1階が病院であり、何時でも診察、相談が出来る体制にあり、利用者や家族にも安心感をもたらしている。歯科は訪問歯科医の受診支援がほとんどである。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に医療連携看護師(介護職員兼務)を配置し、日常のケアにおける情報や気づきを素早く伝え、一人ひとりの利用者が常に適切な受診や看護を受けられる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、職員が病院に向きソーシャルワーカー等関係者との面談を行い、情報交換や退院に向けての準備、相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護についての説明を家族様に行い文書で意向を確認している。家族様が看取り介護を希望された時には、家族様、医師、看護師、管理者、ケアマネージャー等関係者が段階に応じて話し合いを行い方針を共有しながら、最後まで支援を行っている。	重度化した場合や看取りの介護に関する指針がきちんとあり、利用者や家族の意向が事前、またはその都度適宜に話し合い、確認されている。これまで看取りの事例が三例あるが、どの事例も関係者が指針を共有しながら支援をしている。看取り後、遺族から感謝の言葉が届いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、職員数名ずつが緊急時の応急手当等の外部研修に参加し、その他の職員に対し伝達研修を行っている。また、救急・応急手当マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っている。全職員や利用者の他、地区消防団、地域住民、ボランティアの方々にも参加していただき、避難方法などを確認し、地域との協力体制を築いている。	近隣の住民や地元消防団の協力を得ながらの避難訓練が行われており、消防署の指導も受けている。避難場所はすぐ近くの民家で、食事や飲料水等の協力もお願いしてある。防災通報システムも備えてある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の先輩であるという認識を忘れず、言葉遣いや対応などに注意を払っている。プライバシーや接遇マナーについての外部研修への参加や内部研修(勉強会)も行っている。	利用者の尊厳を大切にすることやプライバシーの保護を最も基本においた支援である。敬意を込めた丁寧な言葉遣いや声かけ、対応にもそのことが伺える。接遇や言葉かけについて気になった事は、職員同士、また、管理者を交えて職員本人を傷つけない形で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で思いや希望を表出できる方は十分に話を傾聴し、自分からあまり表出されない方については話をしやすい雰囲気、環境作りや対応を心がけている。また、表出困難な方の場合には表情や行動から推察し、誰もができるだけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の日課はあるが、利用者一人ひとりの体調や生活のリズム、ペースに合わせ、食事や休息など自由に取れるようにしている。活動への参加も、体調や希望を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣替えは家族様にお願いし、本人様の好みの衣類を準備していただいている。入浴時など着替えを行う場合は、できる方には自分で衣類を選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者や職員が毎日栄養のバランスや彩りなどを考えて献立を作り、できる方には一緒に調理の下ごしらえや後片付けを行っていただき、できない方にも希望の献立や好物などを伺いメニューに取り入れている。昼食は職員も会話や介助をしながら一緒に取っている。	利用者の嗜好や希望を取り入れた献立を工夫している。食事開始時刻や食事に要する時間も個人の実態に合わせた支援である。職員も利用者の中に入ってそれとなく支援をしながら、一緒に食事を摂っている。野菜の下ごしらえや味見など利用者が出来る範囲で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューで一人ひとりの状態に合わせた形態や量を提供している。食事量、水分量とも必要時は介護計画に挙げ、こまめな水分摂取を促し必要な摂取量の確保に努めている。食事量は毎回記録し体重の増減にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアの準備、声かけ、見守り、介助などを行い、口腔内の清潔保持、誤嚥性肺炎の防止などに努めている。義歯の調整等、必要時は家族様と相談し訪問歯科の診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を毎日ボードに記入し排泄パターンの把握に努めている。尿意・便意のない方については、時間毎に声かけや誘導、介助を行い、清潔に気持ちよく過ごせるように支援している。	排泄の習慣や状況が的確に把握されており、一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレでの排泄に誘導している。自立支援に視点をおいた見守りや介助である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事やこまめな水分補給、毎日の体操などにより便秘の予防に取り組んでいる。身体機能の低下や持病などにより便秘になりやすい方は、主治医に相談し下剤を服用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様や家族様の希望により、日中はいつでも入浴できるようにしており、入浴がお好きな方はほぼ毎日されている。他の利用者も、体調や体力を考慮しながら入浴介助を行い、心身の清潔保持に努めている。	毎日入浴が出来るように準備がしてあり、希望する利用者とはいつでもゆっくりと入浴できる。利用者の状況によっては職員二人で入浴介助をしている。利用者が入浴に気が向かない時は、無理をせずに気分転換を図ったり、言葉かけ等を工夫しながら入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室の他リビングにはソファを設置し、誰もが好きな時に横になるなどして休息できるような環境整備を行っている。また夜間の睡眠だけでなく、一人ひとりの睡眠リズムや状態に応じていつでも休息、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより、全職員が利用者の薬の種類や目的、効能、副作用等を理解できるようにしている。服薬時は利用者の状態に合わせて見守りや介助を行い確実に服薬できるようにしている。また症状の変化には十分注意し必要時は速やかに主治医へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様からの聞き取りや生活歴などから好きなことや趣味などを把握し、日々の生活やレク活動、行事などに取り入れている。秋の文化祭に向けては熱心に作品作りに取り組まれている。また、時々食べたい物や嗜好品を伺い、食事やおやつに提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度の高い方が多く頻繁な外出は困難であるが、利用者の体調を考慮しながら季節を感じたり気分転換できるようなドライブや外食、戸外の散歩などを行っている。また、年数回のバス旅行や誕生日などには家族様と協力し、普段は行けない場所に出かけている。	施設の近くを散歩したり、買い物に行っている。その際、知り合いの方と言葉や挨拶を交わす事も多い。つつじ園やひまわり園の見学、八朔祭りの面浮流や獅子舞見学、県庁レストランでの外食、文化祭の展示作品の見学など利用者の希望を取り入れ、家族の協力を得ながらの支援である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	軽度の方は自分でお金を所持されており、時々職員と一緒に買い物に行かれ、好みのおやつなどを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話を希望される場合にはいつでも取り次ぎを行い、連絡や話をされている。また、暑中見舞いや年賀状なども、職員の手により家族様に送られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや和室、廊下、壁面などは常に季節感や生活感が感じられるような飾り付けを行い、利用者や家族、来訪者等が居心地よく過ごせるように工夫している。また、台所、浴室、トイレなどは整理整頓、清潔保持に注意し、利用者の安全安心な暮らしを確保している。	自然光が差し込む明るい室内である。国道に面しているが外からの音もなく静かな環境である。室温や湿度も快適に保たれている。職員の工夫による室内の飾り付けは季節感が一杯である。対面式の台所から聞こえるまな板の音や調理の様子や匂いは利用者の五感を刺激している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他、リビングや廊下にはソファやいすを配置し、好きな時に一人で外を眺めたりして過ごされている。また、気の合う利用者同士で、個人の居室で会話をしたりテレビを見たりしながら過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が自宅で使用されていた鏡台やタンスなどを持ち込まれたり、本人様の状態に応じて施設の備え付けのベッドではなく、居室に畳を敷いてマットレスに休まれたりと、本人様や家族様と相談しながら居心地よく安全に過ごせるような工夫をしている。	使い慣れ、馴染みの物が置かれた居室で、その方らしくゆっくりと落ち着いて暮らせる場所になっている。毛布、鏡台、丸いす、時計、座卓、お気に入りの洋服など色々な物で居室が構成されている。職員による心配りの写真が貼ってある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りを受け、手すりを伝いながら施設内を移動するなど、安全にできるだけ自立した生活が送れるように支援を行っている。また、居室やトイレの場所がわかりやすいように、必要時は目印になる物を取り付けるなどの工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない